

国際物流戦略チーム 「今後の取組(改定版)(案)」について

国際物流戦略チーム「今後の取組(改定版)(案)」について

1. 経緯

- 国際物流戦略チームは、取組の方向性を示す「広域連携を通じた国際競争力強化に向けた提言」(2006年4月)等を取りまとめ、「大阪湾諸港の一開港化」の実現等の成果を上げてきた。
- 直近では、日本の国際物流を巡る環境変化に的確に対応するための取組をとりまとめた「今後の取組(2016-2017)」を2016年3月に策定している。
- 近年、国際物流を取り巻く環境は大きくかつ急速に変化してきており、「今後の取組」については、物流を取り巻く環境の変化に対応し、これまでの短期(概ね3年後)の取組内容に加え、中長期(10年後)の取組を策定することとした。
- 平成30年度に「今後の取組」検討ワーキンググループを設置し、国際物流戦略チームの今後の取組となる施策を検討。

2. 策定方針

- これまでの取組の方向性を基本としつつ、わが国の国際物流をめぐる環境変化に的確に対応する。
- また、中長期的な近畿の国際物流のあるべき姿を見据えつつ、従来の枠組みにとらわれず幅広い観点から検討を行う。
- 短期(3年)、中長期(10年)の取組を策定する。

3. 国際物流を取り巻く環境変化と課題

- 成長するアジア経済との経済連携の推進
- グローバルサプライチェーンの深化
- 人口減少に伴う市場の成熟化と担い手不足
- IoT、AI、ビックデータ等の新技術の登場
- 訪日外国人観光客の増加
- 自然災害による物流の影響

4. 「国際物流戦略チーム」の活動の方向性

(1) 第4次産業革命に対応した物流環境の構築

労働力不足が課題となるなか、サプライチェーン全体の効率性・生産性向上のため、物流分野においてIoT、ビッグデータ、AI等の新技術を活用するための新たな情報基盤の導入やインフラ面等の事業環境整備を進める。

(2) 高付加価値物流の実現

産業の特性を踏まえ、基本となる運送機能に加えて、温度管理や時間指定といった付加価値を提供し、また、流通加工等の消費者にとって利便性を高める機能を提供するなど、多様化・高度化する物流ニーズへの対応を進める。

(3) 民間のノウハウを活用した効率的なインフラ運営の推進

民間の資金・ノウハウを活用した多様なPPP/PFI手法の導入を進め、「民」の視点を国際物流インフラの運営に活かし、よりユーザーニーズに対応した低コストで高質なサービスを実現できる仕組みを構築する。

(4) 産学官の連携強化

国際物流の現場で生じる課題に対し、関西の実情を踏まえ産学官が連携して取組を進める。

(5) 安全・安心で、環境に優しい物流体系の構築

災害等が発生した場合、緊急輸送物資等の輸送により国民生活を支え、生産活動を継続し、高い生産性を担保するために、陸海空が互いに補完する体制を構築することで、刻々と変化する状況への対応力と強靭さを備える。さらに、今後急速に進むインフラの老朽化に対し、適切な維持・管理に取り組んでいく。加えて、特定外来生物の発見等のリスクに対して的確に対応する。また、地球温暖化対策や大気汚染による環境負荷の低減など、地球環境問題への取組を進める。

国際物流戦略チーム「今後の取組(改定版)(案)」について

5. 「国際物流戦略チーム」における具体の取組

- 「今後の取組」検討ワーキンググループの報告を踏まえて取組を策定。
- 2018年3月の第14回本部会合報告時からの時点更新を行っている。
- 特に重要な取組として、「崩れないグローバルコールドチェーンの構築」を新規項目として追加。
- ワーキンググループの報告を踏まえ、「(3)各分野における物流機能の強化」及び「(4)国際物流を取り巻く多様なニーズへの対応」に取組を追加。

(3) 各分野における物流機能の強化

ア 港湾の機能強化

- 国際コンテナ戦略港湾「阪神港」の競争力強化
 - ・自働化ターミナルの形成
 - ・温度センサ付きRFID等の導入
 - ・情報プラットフォームの構築

イ 国際貨物ハブ「関西国際空港」の機能強化

- 医薬品輸送の高品質化
 - ・温度センサ付きRFID等の導入
 - ・情報プラットフォームの構築

○生鮮貨物ハブ空港へ向けた取組

- ・温度センサ付きRFID等の導入
- ・情報プラットフォームの構築

(4) 国際物流を取り巻く多様なニーズへの対応

ア 安全・安心な物流体系の構築

- ・輸送手段の多様化
- ・自立型電源装置の設置
- ・3空港＋阪神港BCPの構築
- ・大阪湾ポータルサイトの再構築

ウ 労働力不足への対応

- ・自働化ターミナルの形成

6. 骨子(案)

■現行の骨子

- 1 はじめに
- 2 国際物流を取り巻く環境変化と課題
- 3 「国際物流戦略チーム」の活動の方向性
 - (1) 第4次産業革命に対応した物流環境の構築
 - (2) 高付加価値物流の実現
 - (3) 民間のノウハウを活用した効率的なインフラ運営
 - (4) 産官学の連携強化
 - (5) 安全・安心で、環境に優しい物流体系の構築
- 4 「国際物流戦略チーム」における具体の取組
 - (1) 事業者による新たな取組の開拓・支援
 - ア 「関西総合物流活性化モデル認定事業」の取組
 - イ 物流パートナーへのアクセスサイト「Logi-Link」の運営
 - (2) 特区制度の活用
 - (3) 各分野における物流機能の強化
 - ア 国際コンテナ戦略港湾「阪神港」の競争力強化
 - 阪神港への集貨
 - 阪神港での創貨
 - 阪神港の競争力強化
 - イ 国際貨物ハブ「関西国際空港」の機能強化
 - エアライン・フォワーダーの拠点整備
 - エアライン・フォワーダーの拠点機能の誘致
 - 医薬品輸送の高品質化
 - 生鮮貨物ハブ空港へ向けた取組
 - ウ 道路ネットワークの形成
 - 道路ネットワークの整備
 - 既存道路ネットワークの機能強化
 - エ 鉄道の国際複合一貫輸送の推進
 - (4) 国際物流を取り巻く多様なニーズへの対応
 - ア 安全・安心な物流体系の構築
 - イ 低炭素社会の実現に向けた新たなエネルギー需要への対応
 - ウ 労働力不足への対応
 - エ 人流の変化から派生する物流分野での課題への対応



■改定案の骨子

- 1 はじめに
- 2 国際物流を取り巻く環境変化と課題
- 3 「国際物流戦略チーム」の活動の方向性
 - (1) 第4次産業革命に対応した物流環境の構築
 - (2) 高付加価値物流の実現
 - (3) 民間のノウハウを活用した効率的なインフラ運営の**推進**
 - (4) 産官学の連携強化
 - (5) 安全・安心で、環境に優しい物流体系の構築
- 4 「国際物流戦略チーム」における具体の取組
 - (1) 事業者による新たな取組の開拓・支援
 - ア **崩れないグローバルコールドチェーンの構築**
 - イ 「関西総合物流活性化モデル認定事業」の取組
 - ウ 物流パートナーへのアクセスサイト「Logi-Link」の運営
 - (2) 特区制度の活用
 - (3) 各分野における物流機能の強化
 - ア 国際コンテナ戦略港湾「阪神港」の競争力強化
 - 阪神港への集貨
 - 阪神港での創貨
 - 阪神港の競争力強化
 - イ 国際貨物ハブ「関西国際空港」の機能強化
 - エアライン・フォワーダーの拠点整備
 - エアライン・フォワーダーの拠点機能の誘致
 - 医薬品輸送の高品質化
 - 生鮮貨物ハブ空港へ向けた取組
 - ウ 道路ネットワークの形成
 - 道路ネットワークの整備
 - 既存道路ネットワークの機能強化
 - エ **重要物流道路制度の創設**
 - (4) 国際物流を取り巻く多様なニーズへの対応
 - ア 安全・安心な物流体系の構築
 - イ 低炭素社会の実現に向けた新たなエネルギー需要への対応
 - ウ 労働力不足への対応
 - エ 人流の変化から派生する物流分野での課題への対応